

熊本託麻台リハビリテーション病院広報誌

たくまだい

Vol. 4

2013.11



病院基本理念

わたたくし達は、地域の皆様が、安全に生き生きとした社会生活が送れるよう「ノーマライゼーション」の思想に基づき、保健・医療・福祉及び教育を実施します。

病院基本方針

- 1．患者さま主体の医療を提供します。
- 2．安全・安心の医療、看護、ケアを提供します。
- 3．信頼と期待の魅力ある病院をつくれます。
- 4．質の高い早期からのリハビリテーション医療を提供します。
- 5．地域リハビリテーションを積極的に推進します。

「生活期」

病院長 平田好文

「急性期→回復期→維持期」と言われてきた地域連携が「急性期→回復期→生活期」と変更されました。「維持期」から「生活期」へ変更された理由は何でしょうか。障害を悪化しないようにする「維持期」から、もっと生活主体の「生活期」へ考え方を变える必要があるからです。「生活期」とは、治療を終え、リハビリを終え、在宅をする時期だということです。では、在宅するとはどんなことなのでしょう？



われわれは、回復期リハを終えて家に帰れてよかったよかったですと思っていました。しかし、家での生活を聞いてみると、通所リハへ行く以外には家で何もされない方がなんと多いことかと気付きました。これでは、生活していると言えるのかなと思われました。生活するには、患者さんの役割が必要です。患者さんが何をやりたいかに耳を傾ける必要があります。



『背番号3』は、片麻痺があっても、ゲームはできなくても、バットを片手で振り、楽しんでに野球を語っています。野球が好きなんです。これが生活することだと思えます。将棋をした人、囲碁をした人、釣りをしたい人など希望はいろいろです。家に帰ってからも目標を持ってリハビリを続け、楽しい生活を過ごせるようにしていきます。われわれは、在宅の質を考えねばなりません。

2025年の超高齢者時代を迎えるにあたり、質のいい在宅とは何かが「生活期」に求められることとなります。2025年まであと12年。われわれの前には、地域ごとにしかできない課題があり、地域で考える力が求められています。

チーム医療の新たな取り組み

4階フロアチーフマネージャー 山本雅美

当院は、142床（一般30床・亜急性期18床・回復期94床）の病院で回復期病棟においては、主に脳血管疾患・運動器疾患患者を中心に受け入れ地域医療連携の回復期を担っています。

平成25年5月に帯山へ移転した新病院では病棟毎にリハビリ室が整備され、同じフロア内に各職種を配置し、フロアマネージャー体制を開始しました。

各職種からの代表がフロアマネージャーチームとして活動し、フロアスケジュール体制を初めとして、朝の申し送り・新患及び個別カンファレンス・新患ミーティング・記録による情報共有の方法、さらに365日リハビリ体制の構築に取り組み始めました。

特にカンファレンスは、スタッフ全員参加型で行っており、情報共有を図り、患者の担当者だけが関わるのではなく、フロア全体で問題点を知り総合的にアプローチしていけるよう取り組んでいます。また、同じフロアにセラピストが常駐しているため、タイムリーに問題提起することができ、同時に改善策を見出し、各職員が協働



フロアミーティングの様子

で「在宅復帰」を目標に患者の意向に沿った退院支援を行っています。さらに、退院支援チームを中心としてケアマネージャーの受け入れがスムーズに出来るよう看護師が窓口となり、退院前カンファレンスも外来NS・外来リハスタッフに参加してもらい継続的に患者を支援できるように体制を構築中です。

今後も、更に各職種とカンファレンスによる情報共有を行い、その専門性を最大限に活用し、多職種連携を深めフロアマネージャー体制の充実に努め、退院支援に取り組みでいきたいと思えます。

新病院のリハビリ体制

リハビリテーション部

副部長 山田 隆治



当院のリハビリテーション部は、急性発症後や術後など比較的早い段階から積極的・集中的に各種専門療法を実施し、患者様の心身の機能回復を図ることを中心に病院開設以来35年以上も地域医療の一翼を担ってきました。

また、治療のみならず、自宅生活への適応のための環境整備や共に暮らすご家族へのサポート、職業復帰の支援など多岐にわたって患者様の住み慣れた地域での生活・人生の応援を続けています。

さらには、生後間もないお子様から就学児の発育、障害の改善や学校生活の支援などにも取り組んでおり、まさに子供からお年寄りまで、全世代の方々の多くの疾患や障害の回復や改善をお手伝いしています。

新病院に移転してリハビリテーションの提供体制が少し変革しましたのでご紹介します。各種療法等の実践そのものや支援など本質的な部分に変化はありませんが、各病棟（各フロア）にリハビリテーション室を配し、患者さまは入院された病棟でリハビリテーションに取り組めるようになりました。これに伴って、リハビリテーションスタッフ（セラピスト）も各病棟配属となり、特に夫々の病棟における看護師や介護福祉士等との横の連携が活性化することとなり、患者さま個々に対するチームアプローチの質がより一層高まったと感じています。



ロボットスーツを使用したリハビリ



小児リハビリ室でのリハビリ

また、朝・昼には各病棟毎に他職種が集い、ミーティングやカンファレンスを行うことで、情報の共有やチームの結束を図るとともに、患者さまやご家族の退院後の在宅生活イメージを構成していくことに寄与しています。

1階においては、退院後継続的に治療の必要な外来の方々や小児のリハビリテーションなど利用しやすい動線の中にその空間を配し、明るく広い環境下にリハビリテーションを実践しています。

これらを実践するセラピストは、理学療法士44名、作業療法士14名、言語聴覚士5名の総勢67名となり、今後さらに専門技術を磨き、人間性を磨き、患者様の早い回復並びにご満足頂ける関わりであり方に精進していきたいと思っております。



各階病棟にあるリハビリテーション室

脳ドックのご紹介

脳卒中にならないために

副院長 村上 雅二



現在 脳卒中（脳梗塞、脳出血、くも膜下出血）は、死亡原因の第3位になっておりますが、入院原因および要介護の第1位に位置する重要な疾患（人口動態統計2003）で、脳卒中の発症予防の重要性が指摘されております。

当院では、脳ドックは、熊本県下でもいち早く導入し、平成22年5月には日本脳ドック学会の認定施設になり（現在、熊本県で6施設のみ）、脳疾患の予防医学に積極的に取り組んでおります。



New Vantage Titan (東芝)

平成25年5月からは、MRIの新機種として、熊本県下では初のNew Vantage Titan(東芝) 1.5テスラが導入され、高画質での脳の評価が可能となっており、この機種の特徴は、体が入る穴がこれまでよりも大きく(70cm)、且つ奥行きも短く(150cm)、これまで閉所恐怖症の方にもやさしい作りになっており、音も静かで快適に検査を受けることができます。

当院の脳ドックの特徴は、スピーディな対応と低コストです。すなわち、予約から健診までの期間が約1カ月程度で、空きがあれば、1週間以内でも対応可能です。コスト面では、脳ドックのガイドラインの必須項目（頭部MRI、頭部MRアンギオ、頸部血管エコー、心電図、採血、検尿など）をいれても約3万7000円程度です。

また、オプションとして骨密度、認知機能検査(MMSEなど)も自由に追加することが出来ます。日程は、午前9時から開始し、午前中には全項目が終了し、昼食終了後、管理栄養士による栄養指導をおこない、午後2時から担当医による詳しい説明をおこなっており、およそ午後2時半ごろには、すべてが終了いたします。脳ドック担当医は現在、脳神経外科専門医2名体制(村上雅二、國徳尚子)でおこなっております。

一般に、疫学調査では、40歳ごろから徐々に脳卒中が増える傾向にありますので、是非ともご自分の脳の健康チェックをいたしましょう。

患者さまのご希望に合わせた脳ドック食を提供

栄養管理科では、健診の「脳ドック食」をご提供しています。入院患者さまの食事は治療食ですが、ドック食は季節感を踏まえた「創作料理」となっています。

お料理はドック予約の時点で事前に、魚料理か肉料理を選んで頂き、朝食を抜いて来院され、長い検査が終わった後でも食べたくなる「目で見て楽しみ」「舌で味わって楽しむ」「多少ポリウムが多くて」完食して笑顔がふれるお食事を心掛けています。



脳ドック食(写真左が肉料理、右が魚料理)

脳ドックのご案内は当院ホームページでもご覧になれます。



熊本託麻台リハビリテーション病院 脳ドック

で検索。

<http://www.horio-kai.or.jp/020takuma/brain.html>

・受診のお申込みはすべて予約制となりますので、電話または来院されてご予約下さい。

・連絡先：電話 096-381-5111(代) 健康管理部 「脳ドック」担当 (内線)1121

外来診療スケジュール

診療科	診察室		月	火	水	木	金	土
リハ科		午前	大隈	小原	大隈	-	-	-
		午後	-	-	-	大隈	-	-
リハ科 (前受診)		午前	兒玉	兒玉	-	小川	安川	担当医
		午後	安川	安川	安川	安川	安川	担当医
特殊 外来		午前	小原	-	小原	小原	-	-
		午後	-	-	後藤 (パインクリニック)	-	小原	-
発達小児科 発達神経科		午前	-	-	-	-	-	-
		午後	熊大	-	-	-	-	-
神経 内科		午前	-	佐藤	-	宇山	宇山	-
		午後	佐藤	宇山	宇山	-	-	-
整形 外科		午前	西郷	堀尾	西郷	西郷	西郷	-
		午後	-	-	-	-	-	-
内科 循環器科 消化器科		午前	宮瀬	飯田	飯田	馬場	尾崎 熊大医師	-
		午後	飯田	飯田(新患) 堀内	宮瀬	尾崎	飯田	-
脳外科		午前	村上(新患)	平田(新患)	平田(新患)	平田(新患)	國徳(新患)	-
		午後	平田 (再来)	村上 (再来)	村上 (脳ドック)	國徳 (再来) 後藤	國徳 (脳ドック) 熊大医師 第2週のみ	
検査	内視鏡	午前	尾崎	宮瀬	宮瀬	飯田	宮瀬	-
	エコー	午後	尾崎	宮瀬	宮瀬	飯田	宮瀬	-
特殊 クリニック		午後	-	-	放射線 診断 前原	放射線 診断 池田	義肢装具 クリニック 第1・3週 渡辺	-
禁煙外来		村上・尾崎 (要予約)						
健診		午前	飯田	東(愛)	尾崎	東(憲)	飯田	-
		午後	宇山	飯田	飯田	東(憲)/飯田	-	-

診療スケジュールは医師の出張等に変更する場合がございますので受診の際は、電話にてご確認ください

ペインクリニック外科 後藤真一先生

着任のごあいさつ



も行われるであろう様々なターゲットニング、また精神疾患に対してのDBSの経験もできた点は有意義でした。

【今後の展望】

日本機能神経外科学会の最新ニュースレターには、新生「熊本託麻台リハビリテーション病院」の村上先生による記事が掲載されています。

「託麻台」は、機能的脳神経外科の分野で一目置かれる日本で有数の病院です。

今回、平田院長先生、堀尾理事長から当病院への勤務のご許可を頂き、本当に有り難く思っています。

この「託麻台」の伝統を引き継ぎながら、多角的な痛み治療をさらに推進し、また不随意運動に対する治療を確立することで、新たな歴史の一部に参画して行けたらと思います。DBS、SCS、ITBの手術には自信を持っていますので、様々な疼痛や不随意運動でお困りの身内の方、お知り合いなど、お近くにおいででしたら、お気軽にご相談ください。どうかよろしくお願い致します。

趣味：各種工作（自動車の改造、家のDIY、鉄道・プラモデルなど模型作り）、日奈久温泉の散策、犬の散歩など。

家族：妻と娘3人。八代から車で通勤しています。

このたび東京女子医大脳神経外科から当院へ入職致しました。平成6年に大分医科大学を卒業し熊本大学麻酔科に入局。大病院、出水市立病院、国立熊本病院などに計6年間勤務。その後、熊本労災病院麻酔科で約5年間。専門医取得後は、痛みの治療に傾注し、この間、五反田のZOO関東病院ペインクリニック科へ3ヶ月国内留学。脊髄刺激(SCS)をはじめ様々な治療法を学びました。その後、脳神経外科的な痛み治療の世界的先駆者である平孝臣先生の教えを請うべく、熊本麻酔科を退局し、東京女子医大脳神経外科に入局しました。新宿の女子医大病院では、計8年間、茨城の関連病院での2年間の外勤中は、頭部外傷、脳腫瘍摘出術、また動脈瘤のクリッピングなども術者として携わりました。専門医取得後は機能神経外科の領域で、痛みに加えて不随意運動にも治療の領域を広げました。今では脳深部刺激(DBS)やバクロフェン療法(ITB)は自分にとって重要な専門分野です。当院着任前に臨床留学した豪州では、神経内科のSimon教授のもとで、パーキンソン病に対する視床下核DBS、ふるえに対する視床DBS・凝固術のターゲット決定を任せられました。渡豪以前もDBSの目標設定には自負がありましたが、日本と異なる豪州の方法論も習得し、今後日本で

病院対抗ソフトボール大会出場



平成25年10月13日、阿蘇市農村公園「あびか」にて開催された病院対抗ソフトボール大会に出場。

堀尾会チームは残念ながら勝利を得ることはできませんでしたが、素晴らしいプレーを見せてくれました。



屋内消火栓大会入賞

平成25年9月27日、熊本市アクアドームくまもと多目的広場にて開催された自衛消防隊屋内消火栓操法競技大会に出場しました。この大会は、熊本市内に自衛消防隊を有する事業所において、「自分たちの事業所は自分たちで守る」という主旨のもと、屋内消火栓の1号消火栓を使用し、火元に見立てた標的に放水し、操作開始から標的が倒れるまでのタイムや操作員の動きの正確さなどを競い合うものです。

我が堀尾会チームは練習の成果が発揮され、入賞という好成績を収めることができました。



受付時間

月曜～金曜

午前 8:30～11:30

午後 1:30～4:30

土曜日（リハ再診のみ）

午前 8:30～11:30

午後 1:00～4:30

休診日 日曜・祝日

面会時間

平日（月曜～金曜）

午後 2:00～午後 8:00

土・日・祝日

午前10:00～午後 8:00



〒862-0924 熊本市中央区帯山8-2-1

Tel 096-381-5111

<http://www.horio-kai.or.jp/020takuma/hor020.html>



発行：熊本託麻台リハビリテーション病院

編集：病院広報委員会

広報誌に掲載している患者様の写真はすべて本人の同意を得た上で掲載しております。